



密閉式石油ストーブ

販売店・工事店様用

工事説明書

株式会社 コロナ

型式名 FF-3510GS・FF-4210GS
FF-3510GY・FF-4210GY

- 販売事業者様、設置事業者様へ
お客様に特定保守製品および所有者票の説明をお願いします。
- 据付け工事を行う前に、必ずこの工事説明書をお読みのうえ正しく据付けてください。
- 工事終了後、この工事説明書は取扱説明書と共にお客様に渡し、大切に保管してもらってください。

お願い

1. 標高が1500mを超える場所では使用しないでください。
2. 上記以外の高地で使用される場合は、(高地で使用の場合)の項に従って標高に合わせて、調整が必要となります。
3. 付属の給気ホースは、そのままご使用ください。短く切らないでください。また延長設置を行う場合は、延長された排気管と同じ長さの給気ホースも延長してください。
燃焼バランスをとるため必要です。
4. 排気管の接続部が外れていたり、排気管抜け検知用リード線が正しく接続されていないと、[E] 表示が出て点火できません。
確実に接続してください。
5. 特殊環境（温泉・塩害・大気汚染）による腐食のおそれがある場所では使用しないでください。
6. 本製品は、排気管の床下延長配管はしないでください。

1-1.特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)

- この工事説明書には、安全に正しく据付けていただくために、いろいろな絵表示が記載されています。
その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから、本文をお読みになり据付け工事を行ってください。

△警告

この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示します。

△注意

この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が傷害を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示します。

絵表示の例

- △ 記号は注意を促す内容があることを告げるもので、図の中に具体的な注意内容(左図の場合は一般的な注意)が描かれています。
- 記号は禁止の行為であることを告げるもので、図の中や近傍に具体的な禁止行為が描かれています。
- ! 記号は行為を指示する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な指示内容が描かれています。

△警告

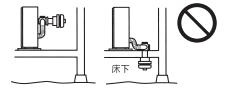
- 据付けや移設は、販売店または据付け工事業者が行ってください。
お客様ご自身で据付けをされ、不備があると感電や火災の原因になります。



- 据付けは火災予防条例、電気設備に関する技術基準などの法令の基準を守って行ってください。



- 屋内給排気および床下給排気禁止
屋内または床下に排気すると、排ガスが室内に漏れて危険です。
必ず屋外に排気してください。



△警告

- 油タンクとの距離を離す(FF-3510GS・4210GS)
油タンクは、ストーブとの間に、防火上有効な壁などがない場合は2m以上離してください。



- 屋内給排気および床下給排気禁止
屋内または床下に排気すると、排ガスが室内に漏れて危険です。
必ず屋外に排気してください。



- 油タンクとの距離を離す(FF-3510GS・4210GS)
油タンクは、ストーブとの間に、防火上有効な壁などがない場合は2m以上離してください。



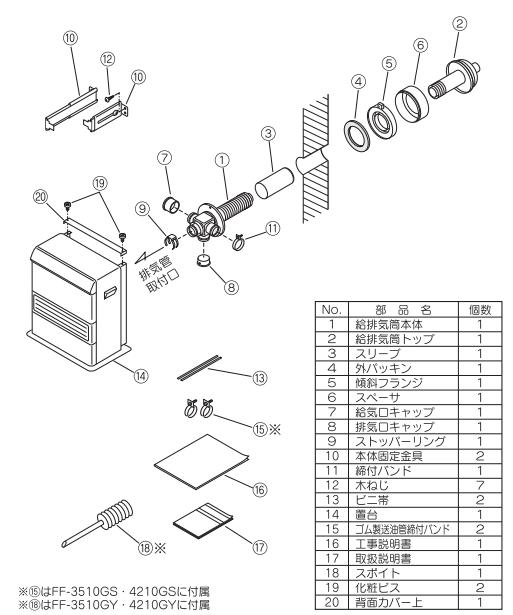
- 屋内給排気および床下給排気禁止
屋内または床下に排気すると、排ガスが室内に漏れて危険です。
必ず屋外に排気してください。



2.開こん

- 1.ダンボール箱からストーブを取り出し、パッキン材・テープなどを取り除いてください。

- 2.梱包内には、次の付属部品が入っていますので確認してください。



1-2.特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)

- この工事説明書には、安全に正しく据付けていただくために、いろいろな絵表示が記載されています。
その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから、本文をお読みになり据付け工事を行ってください。

△警告

●給排気筒を確実に接続

給排気筒(管・ホース)を確実に接続し、しっかりと固定してください。
風、振動、衝撃などで外れたりすると運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。



●給排気筒トップは閉そくしない場所に設置

積雪が多いときに、給排気筒トップの周りが雪でふさがれない場所に設置してください。
また、板などによる「雪囲い」は給排気の妨げになるのでやめください。
運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。



●給排気筒トップには金網などは付けない

給排気筒トップには、虫よけのための金網などは付けてください。
給排気の妨げになり、異常燃焼を起こし排ガスが室内に漏れる可能性があり危険です。



△注意

- 次の場所に据付けない
火災や予想しない事故の原因になります。



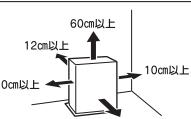
- 水平でない場所、不安定な場所
- 不安定なものをのせた棚などの下
- 可燃性ガスの発生する場所または、たまる場所
- 付近に燃えやすいものがある場所
- 階段、避難口などの付近で避難の障壁となる場所
- 防火対策をしていないマントルピース
- 温室、飼育室、乾燥室など人のいない場所

3-1.据付け

■据付け場所の選定

●可燃物との距離

ストーブと可燃物は、火災予防または性能維持のために右図に示す距離をとつてください。



●電源コンセントの位置

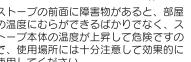
歩行者が電源コードを引っかけない位置にある専用コンセント(AC100V)をご使用ください。



●効果的に使用するために

冷気の入ってくる方向、例えば窓側などに置くと、冷気がストーブで温められ温風として対流しますので、効果的です。

部屋の保溫を工夫し、部屋の温度調節を心がけましょう。

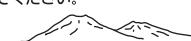


- △警告 積雪が多いときに、給排気筒トップの周りが雪でふさがれない場所に設置してください。また、板などによる「雪囲い」は給排気の妨げになるのでやめください。
運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。



- 標高が1500mを超える高地では使用しないでください。

空気の濃度が希薄なため調整が必要となります。
(高地で使用の場合)の項に従って調整してください。



■据付け方法

●高地で使用の場合

●標高によるストーブの機能調整が必ず必要となります。

●標高により施工できる延長給排気の長さが異なりますので、必ず標高を確認の上、給排気筒を施工してください。

- 標高 800m未満 延長3m以下、曲がり3箇所以下
- 標高 800m以上1500m以下 延長2m以下、曲がり3箇所以下

【標高調整の方法】

- 高地で使用する場合は、空気が希薄なため調整が必要となります。
下記の要領で調整を行ってください。

- 1.前パネルを固定しているねじ2本をはずし、前パネルを外してください。



- 2.運転(燃焼)中、または停止中に、プリント配線板のタクトスイッチ(SW1)を3秒以内に3回押してください。
デジタル表示部は [] を表示し、標高調整モードになります。



- 3.標高に応じデジタル表示部を右表のデジタル表示設定値に合わせてください。
温度調節の [] キーを押して、「1」～「14」の数値で合わせてください。

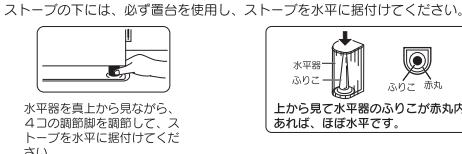
標高(m)	デジタル表示設定値
0～100	0
100～200	1
200～300	2
300～400	3
400～500	4
500～600	5
600～700	6
700～800	7
800～900	8
900～1000	9
1000～1100	10
1100～1200	11
1200～1300	12
1300～1400	13
1400～1500	14

- 4.プリント配線板のタクトスイッチ(SW1)を押して標高調整モードを解除してください。
これでセット完了です。

- 5.前パネルを組み付けてください。

3-2.据付け

置台の取り付けと水平調節 給排気筒を取り付けてから行います。



ストーブの固定

●地震などによる転倒防止のため、付属の本体固定金具を使用し、壁面にしっかりと固定してください。本体固定金具が使えない場所では、床固定金具(別売部品)を使用し、床に固定してください。



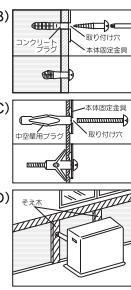
壁または床への固定方法
ストーブに付属の本体固定金具または、床固定金具(別売部品)を取り付けた後、次の方法で固定してください。

A) 木または厚い合板の壁または床に固定する場合
付属の木ねじで固定してください。

B) モルタル、コンクリートの壁または床に固定する場合
市販のコンクリートプラグを購入し、取り付けてください。

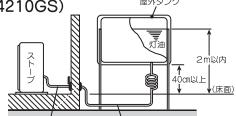
C) 石膏ボード、薄い合板など中空壁に固定する場合
市販の中空壁用プラグを購入し、取り付けてください。

D) 土壁、しつくい壁などに固定する場合
壁にそえ木をし、付属の木ねじで固定してください。



油タンクの据付け (FF-3510GS・4210GS)

- △注意 油タンクは、ストーブとの間に、防火上有効な壁などがない場合は2m以上離してください。
- 油タンクの据付け寸法は右図の寸法に従ってください。



- 油タンクの高さが低いと、灯油がストーブまで流れないので燃焼しません。

- 油タンクの据付けについては、各地区の火災予防条例に従ってください。

- △注意 屋内用の蓄油式タンクは、書やじゅうたんなどの上は避け、不燃材の床上に据付けてください。

金属配管(ゴム製送油管)の場合

- 定油面器へのごみの浸入を防ぐため、配管工事終了後、ストーブと接続する前には必ず配管内に油を流して切替・ごみなどを取り除いてください。

ゴム製送油管の取り付け方

- ゴム製送油管は、JIS S3022「石油燃焼機器用ゴム製送油管」に合規したるもの以外は使用しないでください。
- ゴム製送油管はきつ曲げたり、丸めたりしないようにしてください。
平になるようにおしてください。
- △注意 ゴム製送油管を屋外では使用しないでください。

4-1.給排気筒(管・ホース)の取り付け

- 集合煙突に給排気筒を取り付けないでください。
- 給排気筒は必ず付属のものまたは、指定のものを使用してください。

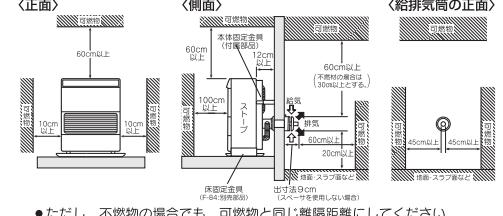
■給排気筒の標準取り付け寸法

- 1.側方可燃物は、両側にあってもかまいませんが給排気筒と可燃物との距離は45cm以上としてください。
- 2.前方に煙突や建物がある場合は給排気筒先端と前方可燃物との距離は60cm以上(不燃材の場合は30cm以上)離し、かつ上方および両側方に気流を阻止する可燃物がないようにしてください。
- 3.給排気筒下面は地面あるいはスラブ面などから20cm以上離すようにしてください。

4-1.給排気筒(管・ホース)の取り付け

- 木造の建物で壁にメタルラス張り、ワイヤラス張りまたは金属板張りをしてある所に給排気筒を通すときは、それらの金属部に接しないように電気的絶縁をしてください。
- 壁に穴を開ける場合、壁の内部や外部にある電気配線・ガス・水道の配管にあたらぬ場所を選んでください。

取り付け寸法図



- ただし、不燃物の場合でも、可燃物と同じ離隔距離にしてください。

■標準設置方式

標準設置方式は背面の壁に穴をあけ付属の給排気筒を直結する設置方式です。

壁厚11~26cmに取り付けできます。

- 付属の標準給排気筒は、壁厚11cmから26cmが限度です。これよりも厚い壁(60cmまで)には、別売のスペーサ(F-99)、延長アダプター(F-100)、延長スリープ#70(F-108)を使用してください。取り付けは、各別売品の取扱説明書を参照してください。

- 外壁が白壁の場合、給排気筒内の結露水で壁が汚れるおそれがありますので通常は付属のスペーサを取り付けてください。

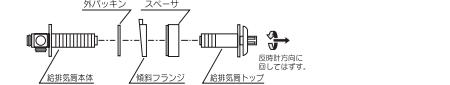
■標準設置方式の工事方法

1.壁面の穴あけ

- 裏面型紙の折り線を床に合わせ、壁にテープで貼り付け給排気筒穴位置を決めください。
決めた給排気筒穴位置に直径75mmの穴を室内側から室外に向けて下向き約2°の傾斜であけてください。

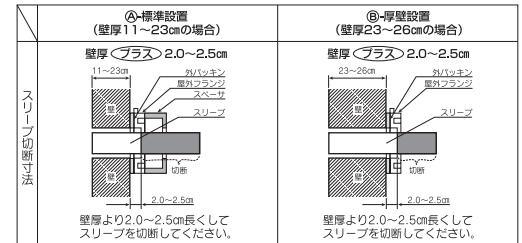


2.給排気筒セットを分解してください。

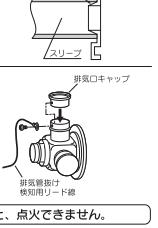


3.スリープのセット

- 1) スリープは、長さ調整が必要です。下記の寸法にノコギリなどで切断してください。
※スペーサは、外壁が白壁や汚れやすい色の場合に使用してください。



- 2) 切断したスリープを屋外フランジのテーパ部に差しこんでください。



4.排気管抜け検知用リード線の接続

- 1) ストーブ背面に固定してある排気管抜け検知用リード線(灰色)を、ストーブよりはずし、ビニールをといて、のばしてください。
- 2) 排気管抜け検知用リード線の先端の端子を、給排気筒の排気口キャップを固定しているねじで固定してください。

●「排気管抜け検知用リード線」がはずれたり断線していると、点火できません。

5.試運転

据付け工事が終わったら、運転をする前に、もう一度「特に注意していただきたいこと(安全のために必ずお守りください)」の項に従って点検してください。試運転は使用者とご一緒に必ず行ってください。

■運転準備 (詳しくは、取扱説明書の4~5ページ参照)

1. 油タンクに灯油(JIS 1号灯油)を給油してください。

2. 送油バルブを開き、送油経路内の空気抜きをしてください。(FF-3510GS・4210GS)

3. 高地で使用される場合は空気が滞留するため調整が必要となります。(詳しくは、(高地または延長配管で使用の場合は)を参照してください。)

4. 定油面器のリセットレバーを軽く押し下げてください。(FF-3510GS・4210GS)

5. ストーブの置台の上や送油管の接続部に、油のたまりや油漏れがないか確かめてください。

6. 電源プラグをコンセントに差しこんでください。

■運転 (詳しくは、取扱説明書の6ページ参照)

運転キーを押してください。

- 運転ランプが点滅し、約3分後に着火します。
- 着火後約1分で対流用送風機が回り温風が出てきます。
- 炎の状態は青い炎の中に、いくらかの黄色い炎(赤火)が混じっても異常ではありません。

初めて使用するときには…

- 耐熱塗料などが焼けて煙とにおいがすることがあります。窓をあけて部屋の換気をしてください。

■消火 (詳しくは、取扱説明書の6ページ参照)

- 運転ランプが点滅し、約3分後に着火します。
- 着火後約1分で対流用送風機が回り温風が出てきます。
- 炎の状態は青い炎の中に、いくらかの黄色い炎(赤火)が混じっても異常ではありません。

- 正常運転しない場合は、取扱説明書の「故障・異常の見分け方と処置方法」を参照してください。(11ページ参照)

■お客様への説明

- 取扱説明書をよく読んでからお使いください。

6.廃棄するときの注意

ストーブを廃棄するときは、必ず灯油を抜いてください。リサイクルの支障となります。

型

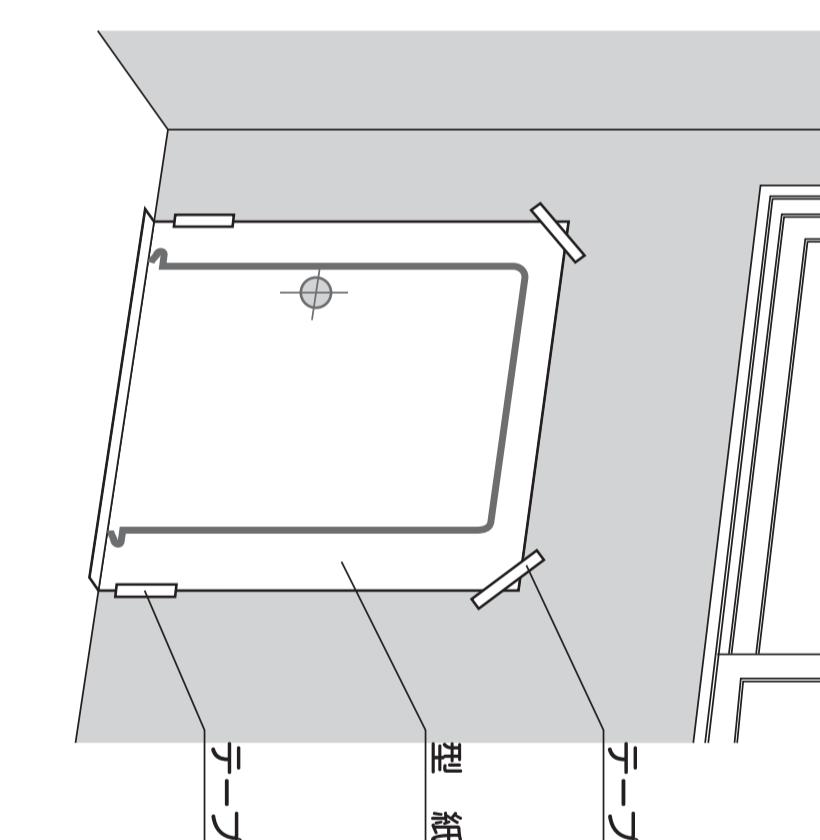
紙

(標準据付け用)

裏面の工事説明書をよく読んで正しく設置してください

使用方法

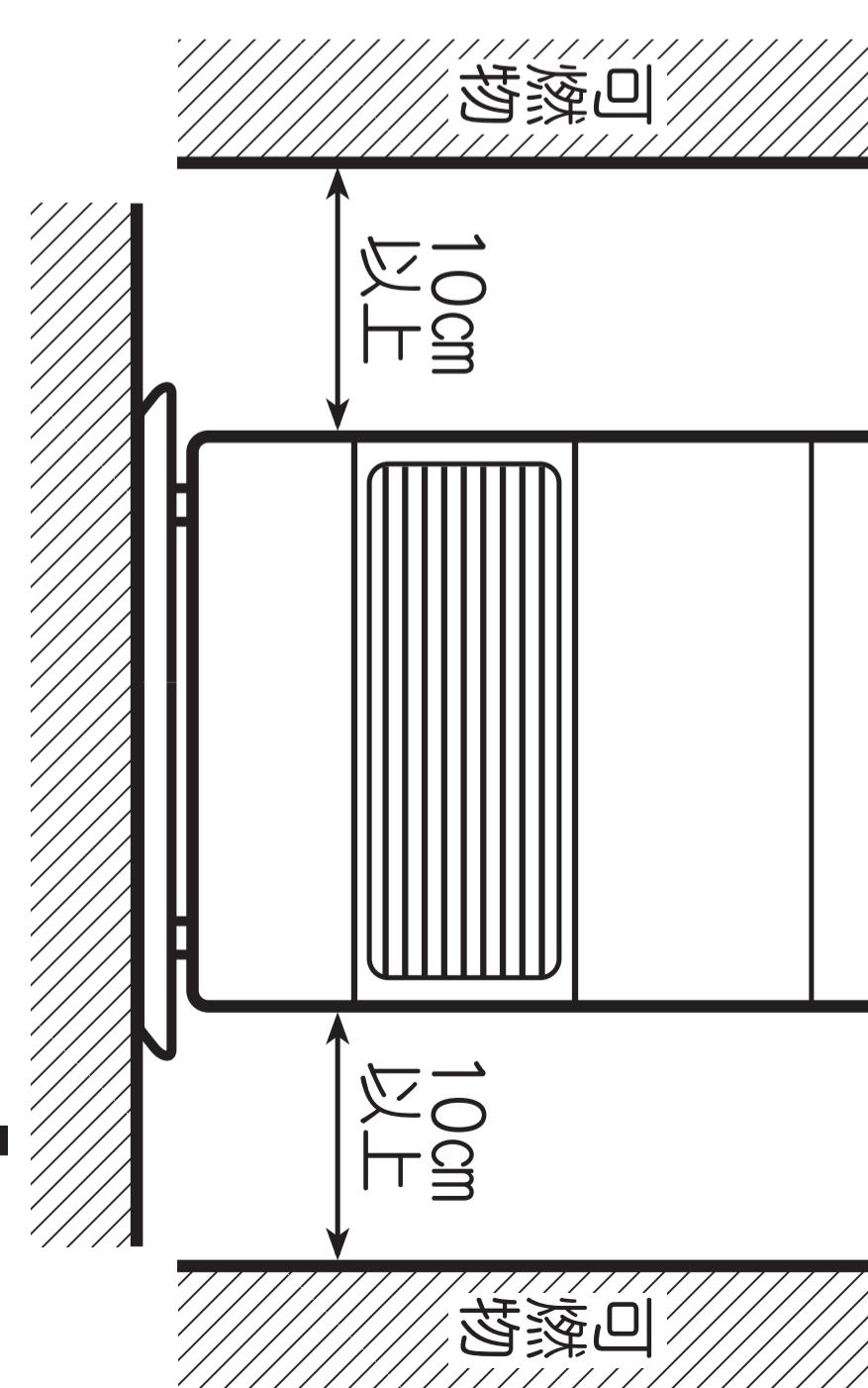
- ストーブの据付け場所を決める。
- 型紙の折り線を床に合わせテープなどで壁にとめ給排気筒取り付け穴センター位置に印をつける。
- 給排気筒取り付け位置に直径75mmの穴を室内側から室外に向けて下向き約2°の傾斜であけてください。



10cm以上

60cm以上

10cm以上



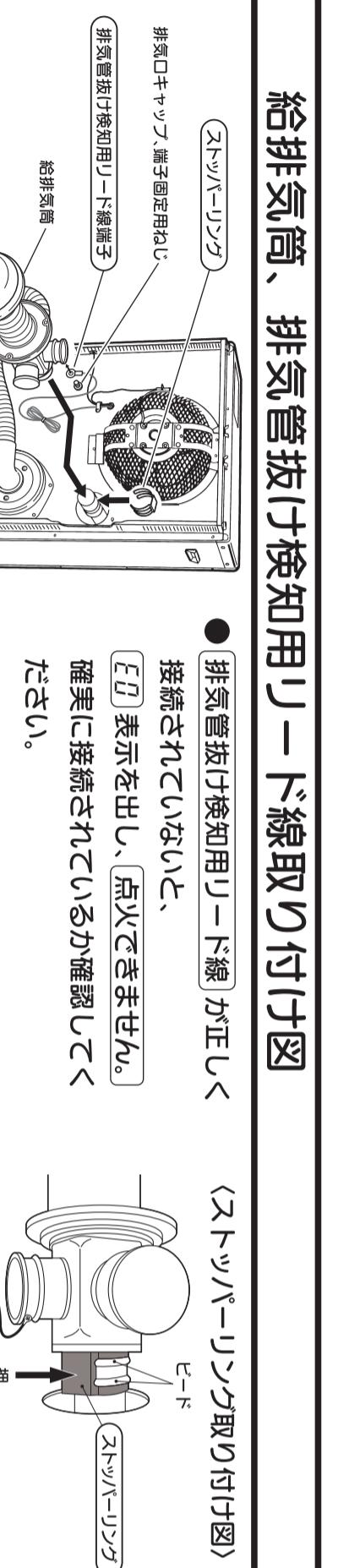
調節足をちぢめたときの高さを示す。

300mm

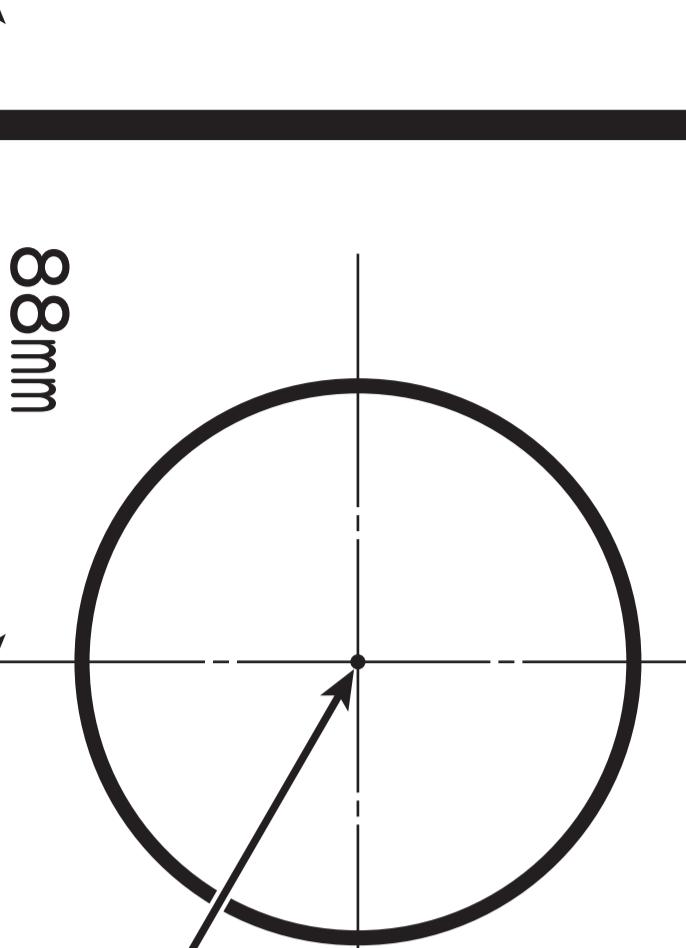
可燃物

可燃物

可燃物



給排気筒取り付け穴
センター位置



88mm

↓この線を床面に合わせてください。

折り線